

ハンドブック
ワンポイント
レッスン

知っておきたい規則とルール

Question

娘が中学校へ入学しソフトテニス部へ入部しました。先日、市総体へ応援に行く娘を車で送った際に、せっかくの機会と思えばらく試合を観戦していました。その大会では、審判は試合をしていない他校の生徒たちが行っていました。ある試合でサービスが「入った」、「入っていない」でしばらく中断していたようで、スタンドで観戦していた関係者が「サービスセンターラインは正審の判定区分だから副審が判定するのはおかしいだろう!」などと大きな声を上げていました。審判をしていた中学生は双方のチームや応援の人たちから責め立てられて、どうしてよいか分からず戸惑っているようでした。娘もいずれ大会などに出場することになると思いますので、このような場合どうすれば良いのか教えてください。

Answer

アンパイヤーが誤ってインプレーを停止するサインまたはコールをした場合は直ちにプレーを中断させる。なお、他のアンパイヤーの判定区分については、その権限を侵さないこと。

副審が二重の誤り(判定区分と判定)をした場合には、正審は「タイム」とコールしてプレーを中断させ、副審のサイン又はコールがプレーに支障を与えたと判断した場合は、ノーカウント(レシーブを終わる前はレット)とし、プレーに支障がなかったと判断した場合は判定の訂正を行う。

ご質問頂いた内容を読む限りでは、詳細な状況は読み取れませんが、スタンドで観戦していた関係者から「サービスセンターラインは正審の判定区分だから副審が判定するのはおかしいだろう!」との声が挙がっていることから推測いたしますと、おそらくサービスをしたボールがサービスセンターライン付近へ落下し、その判定についてインにもかかわらず、副審がフォルトのサインを行ってしまったものと思われます。アンパイヤーの判定区分の誤りを巡ってマッチが中断してしまう場面は、中学生のみならず小学生、高校生、大学生、一般などの多くの大会でも時折見受けられます。アンパイヤーを務める上での基本である区画線による判定区分の理解不足によって、このような事例が発生しているということは大変残念に思います。

区画線によるアンパイヤーの判定区分について、審判規則第8条に示されている通り、正審は審判台側のサイドラインとサービスサイドライン、そしてサービスセンターラインとベースライン(線審がいる場合にはベースラインは線審の判定区分)を、副審は自分の位置する側のサイドラインとサービスサイドライン、そしてサービスラインについて判定を行い、ネット上の空間は共有となっています。

正審はフォルトやアウトのコールをする際、自己の

判定区分については自身の判定によって直ちにコールをしますが、副審の判定区分については副審のサインを確認した後にコールをすることとなります。したがって、サービスラインを越えてフォルトとなるサービスに対して、副審がサインを出す前に正審がフォルトのコールをしている場面をよく見かけますが、出来る限り副審のサインを確認してからコールをするようにしましょう。

また、お互いの判定区分を犯してはいけませんが、自分の判定区分ではないからボールの落下点を確認しなくてもよいという訳ではありません。それは、アンパイヤーの判定は審判規則第8条により判定区分が定められていますが、時としてプレーヤーの影になる等により落下点を確認できない場合もあるので、アンパイヤー間での小さなサイン又はアイコンタクト等により判定を補佐し、連携を取ることによって円滑なマッチ進行が可能となるからです。ボールの落下点は常に注視するよう心得ておきましょう。

今回ご質問頂いた状況から判断しますと、二重の誤りを侵した事になります。1つ目は、区画線による判定区分です。2つ目は、インであるにもかかわらずフォルトと判定した事です。このように二重の誤りを侵した場合の対処の仕方ですが、先ず、正審は「タイム」とコールしてプレーを中断させます。そして副審のサインがブ

プレーに支障を与えたと判断した場合はレットとし、プレーに支障がなかったと判断した場合は判定の訂正を行います。そして副審を呼んで、副審に判定区分と判定が誤っていることを伝え、お互い協力し合う事を確認しましょう。ご質問からはプレーに支障を与えたかどうかについて読み取ることはできませんが、落ち着いて上記のように対処すれば、マッチ進行が必要以上に滞ることは無いでしょう。

【関連規則】

ソフトテニスハンドブック

審判規則

第6条 アンパイヤーの任務

第7条 アンパイヤーの心得

第8条 アンパイヤーの判定区分

第12条 判定の確認

第13条 判定の連携

第14条 再判定

第16条 プレーの停止

ジュニア審判マニュアル

審判規則について

1. アンパイヤーの任務と心得

2. アンパイヤーの判定区分

4. 判定の確認と連携

5. プレーヤーから質問があったときは？（再判定）

7. 間違っただけでインプレーを止めさせるサインまたはコールをしたら？（プレーの停止）

今回の様な事例は、仮に対応を適切に行ったとしても、今後区画線による判定区分の誤りが無くなる訳ではなく、アンパイヤーを務める上で基本的な原則であり、以後のマッチ進行でプレーヤーにアンパイヤーへの不信感を抱かせてしまう可能性も大いにあります。プレーヤーがマッチに集中してプレーできるようにするためにも、アンパイヤーの判定区分はしっかりと覚えておき協力し合い正しい審判が出来るように努力しましょう。

サービスは入っているのに……。副審が二重の誤りをしているので。

タイム!

